# WMS 450

## B 型ワイヤレスシステム
## 取扱説明書

技術基準適合証明品

■対象製品

WMS 450 Vocal Set D 5
WMS 450 Vocal Set C 5
WMS 450 Guitar Set

このたびは AKG「WMS 450」B 型ワイヤレスシステムをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。ご使用いただく前に必ず本書をお読みいただき、内容をよくご理解された上で正しくお使いください。またお読みになったあとは、保証書と一緒に、いつでも見られるところに保管してください。

by HARMAN

# はじめに

## 製品の特長

WMS 450 は、ワイヤレス受信機 [SR 450] とワイヤレス送信機 [HT 450 または PT450]、運用に必要なアクセサリーをひとつのパッケージにまとめた B 型 (806MHz ～ 810MHz)UHF 帯域を使用する周波数可変のワイヤレスシステムです。上位機種譲りの高い音響性能と優れた操作性、様々な状況に対応する充実の機能を搭載し、多彩な現場で活躍します。

- B 型 (806MHz ～ 810MHz) の UHF 帯域を使用する周波数可変のワイヤレスシステムで、最大 6 波までの同時運用が可能です。
- ワイヤードマイクロホンに匹敵する高い音質を実現しています。
- 3 種類のパッケージを用意しています。

  WMS 450 Vocal Set D 5 ........................ハンドヘルド型送信機 (D 5 マイクヘッド搭載 ) と受信機のセット

  WMS 450 Vocal Set C 5........................ハンドヘルド型送信機 (C 5 マイクヘッド搭載 ) と受信機のセット

  WMS 450 Guitar Set ..............................ボディパック型送信機とギターケーブル、受信機のセット

  ★ セット内容の詳細につきましては 4 ページの「梱包内容の確認」をご覧ください。
- 受信機のアンテナには、ドロップアウトが少なく優れた受信感度を発揮するダイバーシティ方式を採用しています。
- 周波数の自動検索機能やシステム設定の赤外線通信機能など、確実かつ迅速なセッティングをサポートする機能を搭載しています。
- ハンドヘルド型送信機 [HT 450] には、音質に定評ある AKG のステージ用マイクロホン D 5( ダイナミック型 ) と C 5( コンデンサー型 )、2 種類のマイクヘッドを採用しています。
- 送信機は単 3 形アルカリ乾電池またはニッケル水素充電池で駆動。単 3 形アルカリ乾電池 1 本で約 6 時間の連続使用が可能です。
- 別売りアクセサリーとして送信機用充電器 [CU 400] を用意。送信機に充電池を収納した状態で充電することもできます。

## 目次


はじめに
- 製品の特長............2
- 安全のために............3
- 使用上のご注意............3
- 梱包内容の確認............4
- 保証書について............5
- 別売りアクセサリー............5

クイックスタートガイド............6
- B 型ワイヤレスシステム周波数表............6

ラックマウント............7

各部の名称と機能
- 受信機【SR 450】............8
  - 受信機の設置場所について............8
  - 外部機器との接続............9
- ハンドヘルド型送信機【HT 450】............10
- ボディパック型送信機【PT 450】............11

操作の前に
- ロックモード............12
- メニューについて............12

基本操作
- 受信機名称の設定＜ NAME ＞............13
- 赤外線通信の方法＜ PRG IR ＞............13
- 入力感度 ( ゲイン ) の設定＜ TX GAIN ＞............14

詳細設定
- AKG 独自の周波数表示............15
- 周波数自動検索機能＜ AUTO ＞............15
- ステータス設定＜ STATUS ＞............16
- リハーサル機能＜ REHEAR ＞............17
- スケルチ設定＜ SQL ＞............17
- インフォメーション確認＜ INFO ＞............17

トラブルシューティング............18

仕様............19

## 安全のために

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

**⚠ 警告**　人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

- 屋外で使用している時に雷が鳴り出したら、ただちに使用をやめ本機から離れてください。落雷による事故の原因になります。
- 分解や改造は行わないでください。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となり危険です。
- 本機からの電波が他の機器（医用機器や航空機など）に影響を及ぼすことがあります。誤動作による事故の原因となりますので、使用環境には十分配慮してください。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損したなどの異常があるときは、ただちに電源を外し修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると火災や感電の原因となります。
- 必ず専用の電源ケーブルを使用してください。これ以外の物を使用すると火災の原因となり危険です。また同梱された電源ケーブルは他の機器に接続しないでください。

**⚠ 注意**　人が損害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

- 濡れた手で電源ケーブルや他の機器との接続ケーブルの抜き差しをしないでください。感電の原因となります。
- 電源ケーブルの上に重いものを乗せたり、熱器具に近づけたり、無理に引っ張ったりしないでください。感電の原因となります。

## 使用上のご注意

### 送信機技術基準適合証明ラベルについて

WMS 450 ワイヤレスシステムの送信機 [HT 450]、[PT 450] は電波法で規定される技術基準適合証明品です。証明番号を記した証明ラベルが 1 台ずつ貼ってあります。表示の改変、除去は法律で禁じられていますので、みだりに剥がしたり、損傷することのないよう注意してください。

### 違法改造について

機器を分解したり、内部の部品に触れたりしないでください。改造等は法律で禁じられています。

### 取り扱い、お手入れについて

- 照明用調光機、コンピューターなどの OA 機器、大型モーター、デジタル・オーディオ機器や電子楽器、トランシーバー等の通信機器の近くでは雑音等の影響を受けることがあります。なるべく離して設置してください。
- 振動する場所、直射日光の当たる場所、高温・多湿な場所、ほこりの多い場所等には設置しないでください。いずれもトラブルの原因となります。
- お手入れは柔らかい布でから拭きしてください。汚れのひどい場合には中性洗剤を使用して固く絞った布で拭いた後、から拭きしてください。ベンジン、シンナー、アルコールなどは変色や変形の原因になりますので使用しないでください。
- 長時間 (2 週間以上 ) 使用しない時は、乾電池を取り出してください。

# はじめに

## 梱包内容の確認

梱包を開けたら、次のものが入っていることを確認してください。
万一足りないものがございましたら、お手数ですがお買い上げの販売店にご連絡ください。

| WMS 450 Vocal Set D 5 | WMS 450 Vocal Set C 5 | WMS 450 Guitar Set |
|---|---|---|
| 受信機 [SR 450]<br>SR 450 専用 AC アダプター<br>UHF アンテナ ×2 | 受信機 [SR 450]<br>SR 450 専用 AC アダプター<br>UHF アンテナ ×2 | 受信機 [SR 450]<br>SR 450 専用 AC アダプター<br>UHF アンテナ ×2 |
| ハンドヘルド型送信機 [HT 450/D]<br>マイクホルダー [SA 64]<br>単 3 形アルカリ乾電池<br>プラスチックプレート<br>送信機識別シート | ハンドヘルド型送信機 [HT 450/C]<br>マイクホルダー [SA 64]<br>単 3 形アルカリ乾電池<br>プラスチックプレート<br>送信機識別シート<br>プレゼンスブースター ( 装着済 ) | ボディパック型送信機 [PT 450]<br>ターミナル・コネクター ×2<br>単 3 形アルカリ乾電池<br>ベルトクリップ<br>送信機識別シート<br>楽器用ケーブル [MKG L] |
| ラックマウントキット<br>L 字型金具大・小、連結金具、コネクターカバー ×2 | ラックマウントキット<br>L 字型金具大・小、連結金具、コネクターカバー ×2 | ラックマウントキット<br>L 字型金具大・小、連結金具、コネクターカバー ×2 |
| 和文取扱説明書<br>英文取扱説明書<br>保証書 | 和文取扱説明書<br>英文取扱説明書<br>保証書 | 和文取扱説明書<br>英文取扱説明書<br>保証書 |

### ■受信機 [SR 450]

● UHF アンテナ× 2

● SR 450 専用 AC アダプター

ラックマウントキット
● L 字型金具大
● L 字型金具小
●連結金具
●コネクターカバー× 2

### ■ギターケーブル [MKG L]

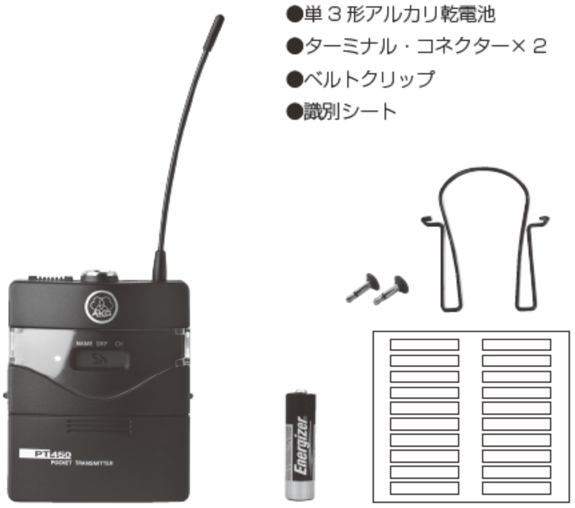
※ Guitar Set に付属

### ■ハンドヘルド型送信機 [HT 450]

●マイクホルダー
●単 3 形アルカリ乾電池
●プラスチックプレート
●識別シート
●プレゼンスブースター
※ C 5 モデルのみに付属
※ 出荷時装着済み

### ■ボディパック型送信機 [PT 450]

●単 3 形アルカリ乾電池
●ターミナル・コネクター× 2
●ベルトクリップ
●識別シート



## 保証書について

・保証書は必ず「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」の記入をご確認いただき、製品とともにお受け取りください。お買い上げ日より 1 年間は保証期間です。保証書の記載事項に基づき、無償修理等を保証させていただきます。修理等はお買い上げの販売店までご依頼ください。
・お買い上げ時に「お買い上げ年月日」「お買い上げ店名 / 所在地」が正しく記入されていない場合は保証書が無効になり、無償修理を受けられないことがあります。記載内容が不充分でしたら、速やかに販売店にお問い合わせください。
・改造など通常の使用範囲を超えた取り扱いによる、設計・製造以外の要因で起きた故障や不具合は、期間内であっても保証の対象外となります。

**故障かな？と思われる症状が出たときには**

この取扱説明書をもう一度よくお読みになり、接続や操作などをご確認ください (18 ページ「トラブルシューティング」参照 )。それでも改善されないときは、お買い上げの販売店までお問い合わせください。調整・修理いたします。

## 別売りアクセサリー

WMS 450 には、以下のアクセサリーをオプションで用意しています。

### ■送信機用充電器

CU 400

・送信機本体に充電池を装着したまま充電可能
・同時に 2 台の送信機を充電可能
・充電状況を示すステータス LED を装備

### ■アンテナ分配器

PS 4000 W

・最大４台の SR 450 を接続可能
・２入力 /8 出力 (BNC 端子 )
・別の PS 4000 W への出力も装備

### ■セントラルパワーサプライ

PSU 4000

・最大３台のアンテナ分配器 [PS 4000 W] に電源を供給

### ■アンテナネットワーク／リモートパワーサプライ

ASU 4000

・１入力 /1 出力 (BNC 端子 )
・外部機器へ 8V の電源を供給

### ■アンテナブースター

AB 4000

・ゲイン：7dB ～ 17dB
・１入力 /1 出力 (BNC 端子 )

### ■指向性アクティブアンテナ

SRA 2 B/W

・マイクスタンドに設置可能
・アンテナゲイン：4.5dB
・ブースターゲイン：17dB
・指向角度：70°

### ■無指向性アクティブアンテナ

RA 4000 B/W

・付属のホルダーでマイクスタンドに設置可能
・ゲイン 17dB

### ■アンテナコンバイナー

ZAPD 21

・２入力 /1 出力（BNC 端子）

### ■ PT 450 用リモート・ミュートスイッチ

RMS 4000

・ケーブル長：110cm

### ■ HT 450 用ウインドスクリーン

W 880

### ■プレゼンスブースター

PPC 1000

・カーディオイドの指向性をハイパーカーディオイドに変換
・C 5 マイクヘッドのハンドヘルド型送信機 [HT 450/C] 専用

### ■アンテナケーブル

MK PS

・65cm アンテナケーブル (BNC-BNC)

### ■フロントパネルマウントキット

・65cm アンテナケーブル (BNC-BNC)。パネルマウント用金具が付属。

# クイック・スタート・ガイド

周波数 (MHz) を設定するだけの、シンプルな設定方法です。1 波のみの運用で、他のシステムと電波干渉の心配がない場合に適しています。下記の手順に従ってあらかじめ決定した周波数 (MHz) を設定すると、最低限の操作でワイヤレスシステムをご使用いただけます。

下記「B 型ワイヤレスシステム周波数表」を参考に、使用する周波数 (MHz) を決定します。

① 受信機の電源を ON にした後、パラメーター選択ボタン◉を長押しして“ロックモード“を解除します (12 ページ参照)。

② パラメーター選択ボタン◀▶を両方同時に約 3 秒間押し続けます【図 1】。周波数表示画面に切り替わり、周波数 (MHz) が点滅します (右図の場合＜ 806.125 ＞が点滅)【図 2】。

③ ◀または▶を押すと、「B 型ワイヤレスシステム周波数表」にある周波数 (MHz) が小さい方から順に表示されます。あらかじめ決定した周波数 (MHz) を選択します。

④ ◉を押して周波数 (MHz) を決定します。

⑤ 画面には＜ SAVE-Y ＞が表示されるので、その周波数 (MHz) でよければ◉を押して確定します【図 3】。

⑥ 画面には＜ PRG IR ＞が表示され、赤外線通信の準備ができたことを示します【図 4】。

⑦ 電池を入れた送信機のスライドスイッチを "OFF" から "MUTE/PRG" に切り替えます。

⑧ 送信機の赤外線ポート (「IR」文字部) を受信機の赤外線ポート (「IR」文字部) に向かい合うようまっすぐ近づけます【図 5】。

⑨ 受信機のボタン◉を押すと赤外線通信が始まります【図 6】。

⑩ 受信機の画面に＜ IR OK ＞と表示されれば送信成功です【図 7】。

★ 赤外線通信は、受信機の設定情報を赤外線 (IR) を利用して送信機に転送する機能です。詳細は 13 ページ「赤外線通信の方法」をご覧ください。

⑪ 赤外線の送信が完了したら送信機のスライドスイッチを“ON”にします。送信機から電波が発信され、運用可能な状態になります。

問題なく電波が送受信できている場合は、受信機の RF OK LED が点灯し液晶画面左の RF 信号レベルメーターが作動します。また、音声信号が正常に受信できていると AF OK LED が点灯し液晶画面右の AF 信号レベルメーターが作動します【図 8】。

音が歪む、もしくは極端に音量が小さい場合入力感度 (ゲイン) の調整で解決する場合があります。14 ページ「入力感度 (ゲイン) の設定」をご覧ください。

### B 型ワイヤレスシステム周波数表

| 周波数(MHz) | B1 | B2 | B3 | B4 | B5 | B6 | B7 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 806.125 | B11 | | | | | | B71 |
| 806.250 | | B21 | | | | | |
| 806.375 | B12 | | | | | | B72 |
| 806.500 | | B22 | | | | | |
| 806.625 | | | B31 | | | | |
| 806.750 | | | | B41 | | | |
| 806.875 | | | B32 | | | | B73 |
| 807.000 | | B23 | | | | | |
| 807.125 | B13 | | | | | | |
| 807.250 | | | | | | B61 | |
| 807.375 | | | B33 | | | | |
| 807.500 | | | | B42 | | | B74 |
| 807.625 | | | | | B51 | | |
| 807.750 | B14 | | | | | | |
| 807.875 | | B24 | | | | | |
| 808.000 | | | | B43 | | | |
| 808.125 | | | | | B52 | | |
| 808.250 | | | B34 | | | | |
| 808.375 | | | | | B53 | | |
| 808.500 | | B25 | | | | | B75 |
| 808.625 | | | B35 | | | | |
| 808.750 | | | | | B54 | | |
| 808.875 | | B26 | | | | | |
| 809.000 | B15 | | | | | | |
| 809.125 | | | | B44 | | | |
| 809.250 | | | B36 | | | | |
| 809.375 | | | | B45 | | | B76 |
| 809.500 | B16 | | | | | | |
| 809.625 | | | | | B55 | | |
| 809.750 | | | | B46 | | | B77 |

★アルファベット 1 文字と 2 桁の数字で示されているものは、日本国内での呼称です。例：「B11」「B32」など。

図 1

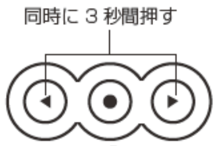



図 2

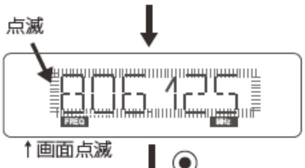



図 3

図 4

図 5

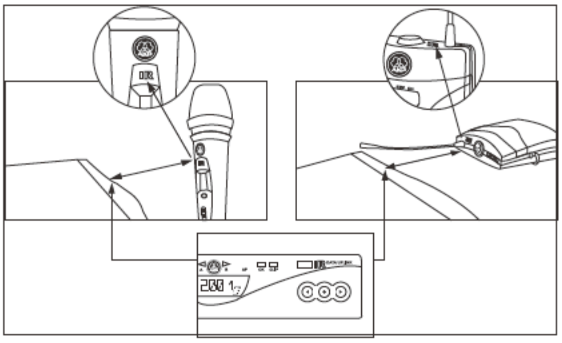
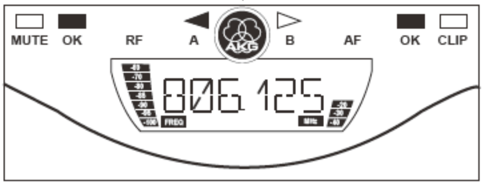


図 6

図 7

図 8




### トラブルシューティング

● “RF”は点灯するが音が出ない

→送信機のスライドスイッチが“MUTE”になっていませんか？必ず“ON”にして運用してください。

●音は出るが AF 信号レベルメーターが点灯しない

→入力感度が適切でない可能性があります。14 ページ「入力感度 (ゲイン) の設定」をご覧ください。

●音は出るが“CLIP”が点灯する

→入力感度が適切でない可能性があります。14 ページ「入力感度 (ゲイン) の設定」をご覧ください。

## 1U スペースに受信機 1 台をラックマウントする場合

(1) 受信機底面にある 4 箇所のゴム足①を取り外します【図 A】。

(2) 受信機本体の両側面にあるネジ②を取り外し、付属の L 字型金具小③、L 字型金具大④を受信機本体の両側面に、先程外したネジ②を使って固定します【図 B, 図 C】。

図 A

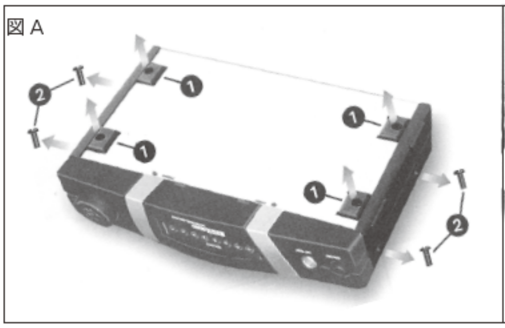



図 B

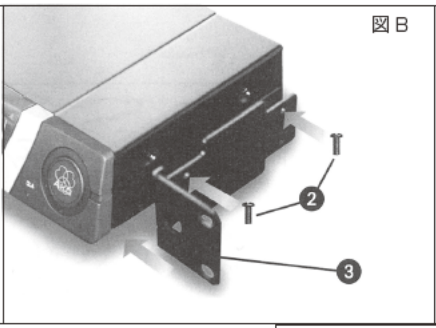
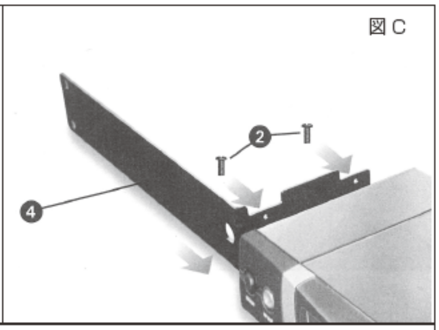
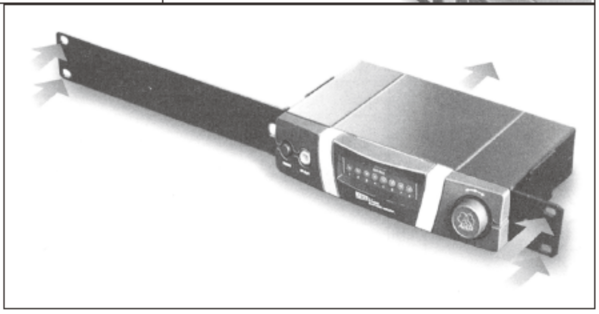



図 C



## 1U スペースに受信機 2 台をラックマウントする場合

(1)2 台の受信機の底面にあるゴム足①と、ゴム足を固定しているネジ②を取り外します【図 A】。

(2) 付属の連結金具③を用意します。一方の受信機のゴム足を外した箇所に本体側面から連結金具③を差し込み、ネジ②で固定します【図 B】。

(3) ゴム足を取り外してあるもう一台の受信機④を連結金具に差し込み、ゴム足を固定していたネジ②で固定します【図 C】。

(4) それぞれの受信機に L 字型金具小⑤を用意します。L 字型金具小⑤を取り付ける側面のネジ⑥を一度取り外し、そのネジ⑥を使ってラックマウント金具小⑤を固定します【図 D】。

図 A

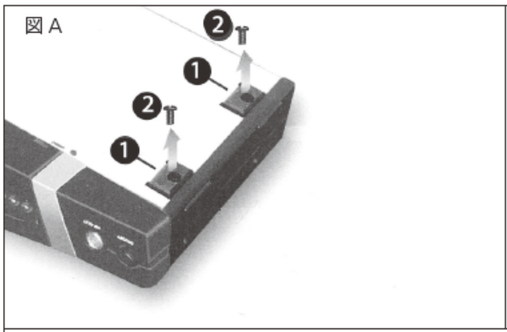



図 B

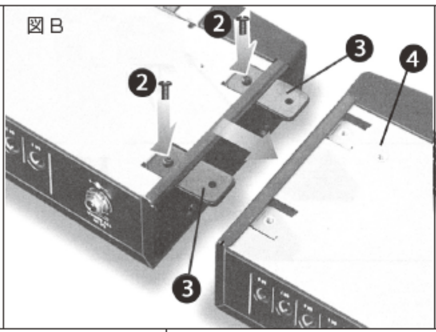



図 C

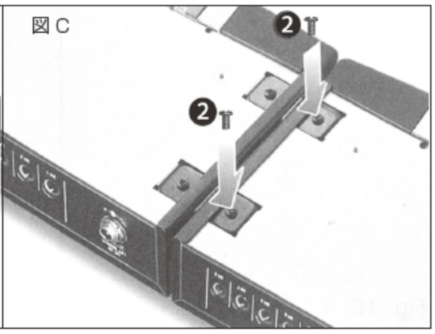
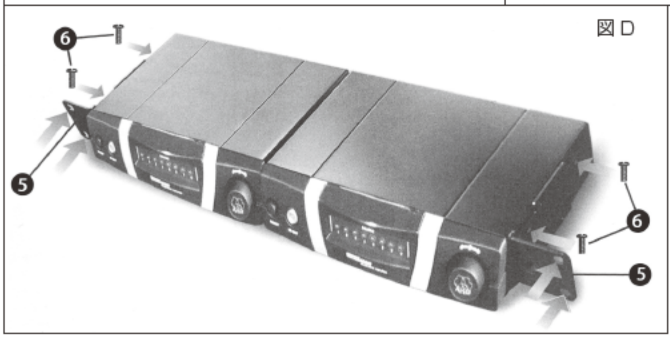


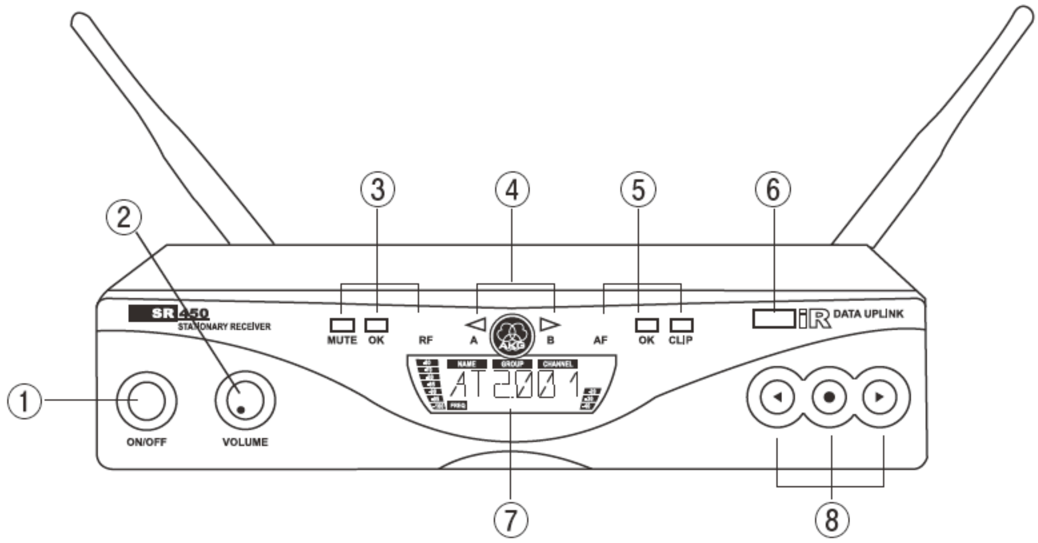

図 D




受信機の寸法以上に奥行きのあるラックに設置する場合は、オプションのフロントパネルマウントキットを使用して、アンテナをラック前面に取り付けてください。

# 各部の名称と機能

## 受信機 [SR 450] 前面パネル




### ① ON/OFF : 電源 ON/OFF スイッチ

### ② VOLUME : 出力レベルコントロールつまみ

受信機の出力レベルを調整します。押し込み式のつまみです。使用しない時は、つまみを押し込む事で誤操作を防止します。調整可能な範囲は 30dB です。

### ③ RF 信号の受信状況

RF MUTE LED( 赤色に点灯 )

RF 信号を受信していない時に点灯します。このとき AF( 音声 ) 信号の出力は自動的にミュートされます。

RF OK LED( 緑色に点灯 )

RF 信号を十分なレベルで受信している時に点灯します。

### ④ A/B LED : ダイバーシティ A/B LED

ダイバーシティ回路により、A または B どちらのアンテナが選択されているかを示します。

### ⑤ AF( 音声 ) 信号の受信状況

AF OK LED( 緑色に点灯 )

AF( 音声 ) 信号の受信レベルが－ 40dB ～ +3dB の時緑色に点灯します。

AF CLIP LED( 赤色に点灯 )

AF( 音声 ) 信号の受信強度が 3dB 以上になると点灯し、AF( 音声 ) 信号がクリップしていることを示します。

★ AF CLIP LED が点灯する回数が多いと歪みの原因となるため、入力感度 ( ゲイン ) の調整が必要です。詳しくは 14 ページ「入力感度 ( ゲイン ) の設定」をご覧ください。

### ⑥ IR : 赤外線ポート

送信機 [HT450 または PT450] へのデータ転送に使用する赤外線ポートです。周波数やゲインなどの設定を送信します。赤外線の送信範囲は上下左右 10 度以内、距離は 10cm 以内です。

★ 送信機の周波数設定およびハンドヘルド型送信機 [HT 450] のゲイン設定は、受信機で設定した情報を赤外線通信を利用して送信機に転送します。送信機本体で設定することはできませんのでご注意ください。

★詳細は 13 ページ「赤外線通信の方法」をご覧ください。

### ⑦ 液晶画面

バックライト付きの液晶画面です。

画面左 : RF 信号レベルメーター

RF 信号の受信強度を、－ 60 ～－ 100dB の範囲で示します。

画面右 : AF 信号レベルメーター

AF( 音声 ) 信号の受信強度を、－ 40dB ～ +3dB の範囲で示します。

画面中央 : メニューやパラメーター表示

メニュータイトルやパラメーターなどを表示します。

★ 表示内容の詳細については 12 ページ「メニューについて」をご覧ください。

★ 出荷時のバックライトは「常時緑色」に点灯するよう設定されています。エラー発生時は「赤色」に点灯するよう設定することもできます。詳しくは 16 ページ「ステータス設定」をご覧ください。

### ⑧パラメーター選択ボタン

◀▶ : メニューやパラメーターの変更に使用します。

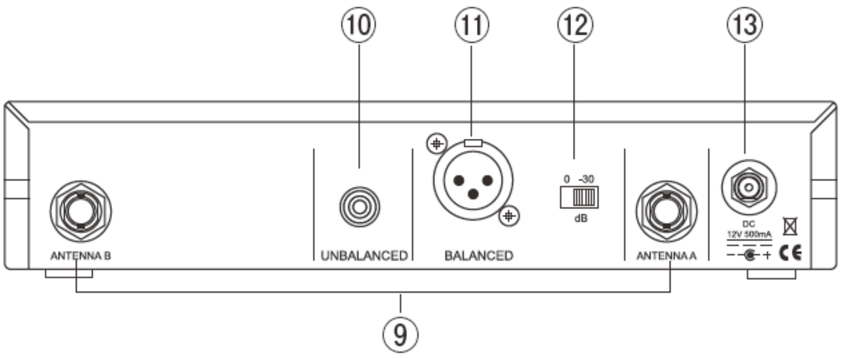
● : メニューやパラメーターの呼び出し、決定に使用します。

### 受信機の設置場所について

金属や壁、天井などによる反射、ミュージシャンなど人物でさえぎられると、電波が途切れたり弱まる可能性があります。以下の点に注意して受信機の設置位置を決定してください。

- ステージなど、送信機を持つ人が見通せる場所に設置します。
- 受信機と送信機の距離は少なくとも 3m 以上あけてください。5m が最適な距離です。
- 金属や壁、やぐら、天井などからは 1.5m 以上離して設置します。

## 受信機 [SR 450] 背面パネル




### ⑨ ANTENNA A/ANTENNA B：アンテナ入力端子

付属のアンテナを接続する BNC 端子です。ドロップアウトが少なく、受信感度の優れたダイバーシティ回路を採用しています。

### ⑩ UNBALANCED：アンバランス型出力端子

アンバランス型、標準フォーンジャック (TS) の出力端子です。ギターアンプやベースアンプ等への接続に使用します。

### ⑪ BALANCED：バランス型出力端子

バランス型、XLR3 ピンコネクターの出力端子です。ミキシングコンソールのマイク入力などに接続します。

### ⑫ 0/ − 30dB：出力レベル切替スイッチ

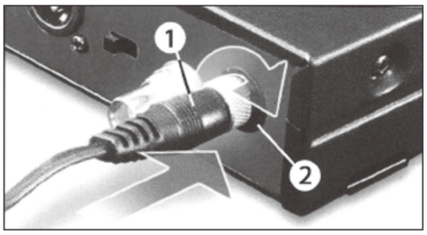
XLR3 ピンコネクター⑪の出力レベルを、接続する機器の入力レベルに応じて切り替えます。

■− 30dB ＝マイクレベル
■ 0dB ＝ラインレベル

標準フォーンジャック⑩の出力には影響しません。

### ⑬ DC IN：電源入力端子

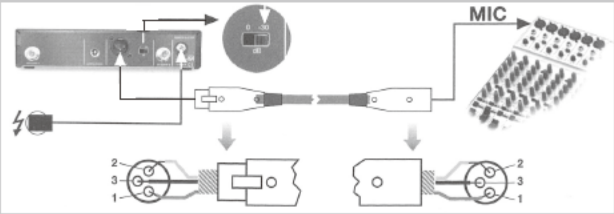
付属の AC アダプターを接続します。図のように付属の AC アダプターのプラグ①を差し込み、外れ止めリング②を時計回りに回すとプラグがロックされます。外す時はリングを反時計回りに回します。




### 外部機器との接続方法

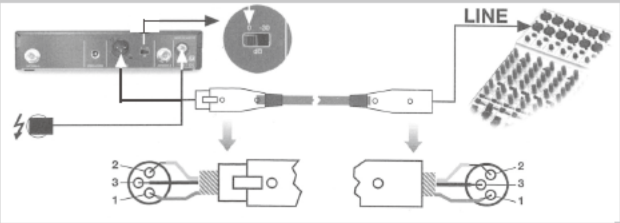
バランス型出力端子を使用した接続例【XLR3 ピン→マイク入力】

※ 出力レベル切替スイッチ⑫は [ − 30dB] にセットします。



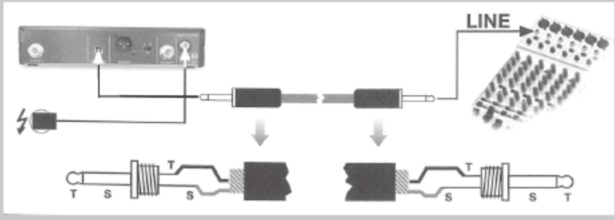

バランス型出力端子を使用した接続例【XLR3 ピン～ライン入力】

※ 出力レベル切替スイッチ⑫は [0dB] にセットします。



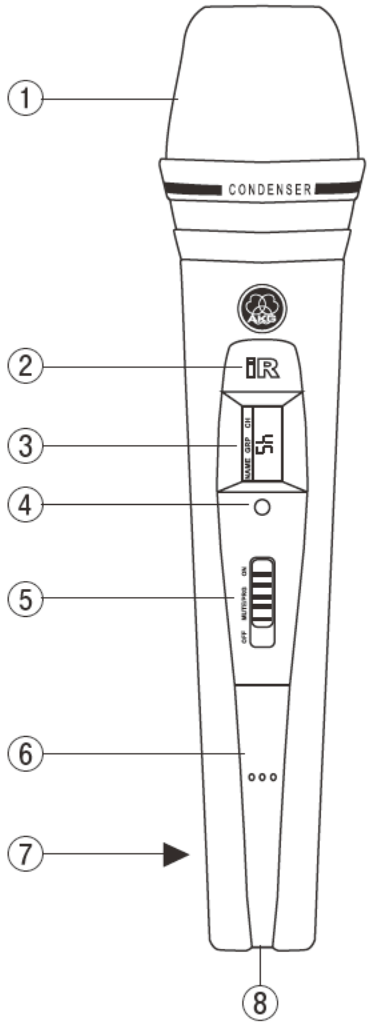

アンバランス型出力端子を使用した接続例

【標準フォーンジャック出力～ライン入力】



# 各部の名称と機能

## ハンドヘルド型送信機 [HT 450]




### ① マイクヘッド

D 5（ダイナミック型、スーパーカーディオイド）または C 5（コンデンサー型、カーディオイド）のマイクヘッドです。

C 5 マイクヘッドについて

・ 5 ～ 9kHz の感度を 5dB 上げて明瞭な音質を得られるプレゼンスブースターが装着されています（取り外し可）。

### ② IR：赤外線ポート

受信機 [SR 450] からのデータ転送を受信するための赤外線ポートです。周波数やゲインなどの設定を受信します。赤外線の受信範囲は上下左右 10 度以内、距離は 10cm 以内です。

★ 詳細は、13 ページ「赤外線通信の方法」をご覧ください。

### ③ 液晶画面

運用に必要な情報を表示します。

★ 詳細は右の「スライドスイッチ操作詳細」をご覧ください。

### ④ LED：動作状況表示 LED

送信機の動作状況を示します。

緑 ..................電池残量は 1 時間以上です。

赤 ..................電池残量が 1 時間以下です。

赤の点滅.......警告メッセージがあります。

⚠ 上記電池残量の目安は単 3 形アルカリ乾電池使用時のものです。充電池の場合、表示時間よりも早く電池がなくなりますので注意が必要です。早めに新しいものと入れ替えてください。

★電池寿命は単 3 形アルカリ乾電池 ( 新品 ) で約 6 時間です。

★電池残量表示は 1 時間単位です。

★ LED の色および点灯方法はスライドスイッチの操作に連動します。詳細は下の「スライドスイッチ操作詳細」でご確認ください。

### ⑤ OFF-MUTE/PRG-ON：スライドスイッチ

電源 ON/OFF、ミュート ON/OFF、赤外線受信 ON の動作を選択します。

★ 詳細は下の「スライドスイッチ操作詳細」をご覧ください。

### ⑥ 識別プレート

出荷時は黒いプレートが装着されています。付属のプラスチックプレートと識別シートを使用することで個体を識別できます。複数の HT 450 を同時に使用する時に便利です。

### ⑦ 電池ボックス

付属の単 3 形アルカリ乾電池を 1 本を装着します。乾電池を挿入する際は、極性に注意してください。市販のニッケル水素充電池 (2100mAh) も使用できます。

### ⑧ 充電接点

オプションの充電器 [CU 400] を使うときに使用します。

### HT 450 スライドスイッチ操作詳細

スライドスイッチ：**OFF から MUTE/PRG** に移動

LED..............消灯

画面表示........**機種名** [HT 450] と**設定周波数** [806.125] を一瞬だけ表示（いずれの表示もすぐに消えます）。その後 **AKG 独自の周波数表示** [b15.001] と、赤外線通信待ちうけ状態であることを示す **[ProG.Ir]** を交互に表示。

電波状態........赤外線通信待ち受け状態です。電源は ON ですが、RF 信号・AF(音声)信号ともにミュートされています。

---

スライドスイッチ：**MUTE/PRG から ON** に移動

LED..............緑色点灯

画面表示........**AKG 独自の周波数表示** [b15.001] と **GAIN 設定** [GAIn Lo] を一瞬表示（いずれの表示もすぐに消えます）。その後**電池残量** [5h] を常時表示。

電波状態........RF 信号・AF( 音声 ) 信号ともに送信され、運用中の状態です。

---

スライドスイッチ：**ON から MUTE/PRG** に移動

LED..............赤色点灯

画面表示........**AKG 独自の周波数表示** [b15.001] と**ゲイン設定** [GAIn Lo] を交互に表示。

電波状態........電源は ON で、RF 信号も発信していますが、音声信号はミュートしています。

---

スライドスイッチ：**MUTE/PRG から OFF** に移動

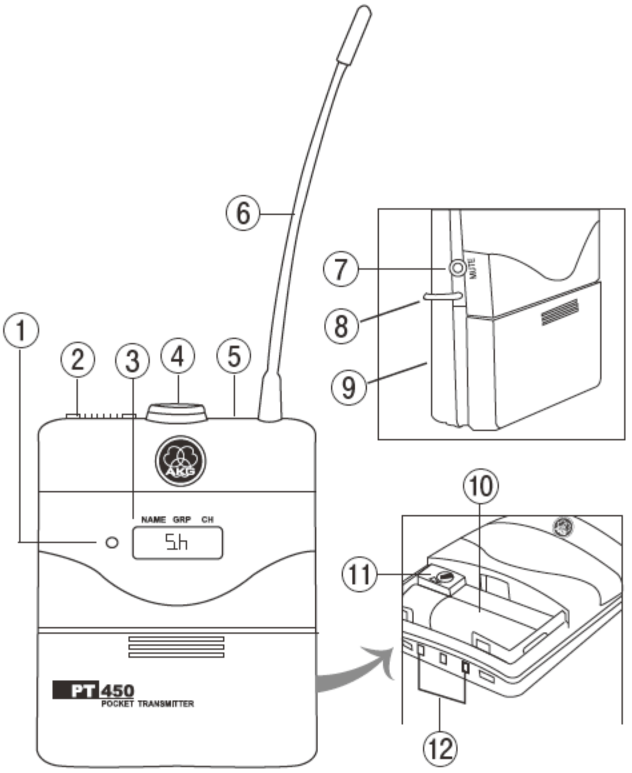
LED..............消灯

画面表示........**「off」**を表示した後消灯。

電波状態........電源が OFF のため、電波は発信されません。

※「設定周波数」や「AKG 独自の周波数表示」は、予め設定していないと表示されません。

## ボディパック型送信機 [PT 450]




### ① LED：動作状況表示 LED

送信機の動作状況を示します。

緑..................電池残量は 1 時間以上です。
赤..................電池残量が 1 時間以下です。
赤の点滅.......警告メッセージがあります。

⚠ 上記電池残量の目安は単 3 形アルカリ乾電池使用時のものです。充電池の場合、表示時間よりも早く電池がなくなりますので注意が必要です。早めに新しいものと入れ替えてください。★

★ 電池寿命は単 3 形アルカリ乾電池 ( 新品 ) で約 6 時間です。

★電池残量表示は 1 時間単位です。

★ LED の色および点灯方法はスライドスイッチの操作に連動します。詳細は右の「スライドスイッチ操作詳細」でご確認ください。

### ② OFF-MUTE/PRG-ON：スライドスイッチ

電源ON/OFF、ミュートON/OFF、赤外線受信ONの動作を選択します。

★ 詳細は右の「スライドスイッチ操作詳細」でご確認ください。

### ③液晶画面

運用に必要な情報を表示します。

★ 詳細は右の「スライドスイッチ操作詳細」でご確認ください。

### ④入力端子

ミニ XLR3 ピンコネクターの入力端子です。マイク / ライン入力いずれも入力可能です。楽器ケーブルや AKG ボディパック型送信機用マイクロホンを接続します。

### ⑤ IR：赤外線ポート

受信機 [SR450] からのデータ転送を受信する赤外線ポートです。赤外線の受信範囲は上下左右 10 度以内、距離は 10cm 以内です。

★ 詳細は、13 ページ「赤外線通信の方法」をご覧ください。

### ⑥アンテナ

1/4 波長、ホイップアンテナを装備しています ( 脱着不可 )。

### ⑦ミュートジャック

付属のターミナル・コネクターを差し込みます。スライドスイッチが電気的にロックされ、スライドスイッチによるミュートができなくなります。ミュートジャックからターミナル・コネクターを取り外すとロックを解除します。

★別売りアクセサリーのリモート・ミュートスイッチを接続することもできます。

### ⑧ ベルトクリップ

### ⑨ 電池ボックス

付属の単 3 形アルカリ乾電池を 1 本を装着します。乾電池を挿入する際は、極性に注意してください。市販のニッケル水素充電池 (2100mAh) も使用できます。

### ⑩識別シート取り付け窓

本体裏面に付属の識別シートを取り付ける窓があります。個体を識別できるので、複数の PT 450 を同時に使用する時に便利です。

### ⑩ ゲイン調整つまみ

電池ボックス⑨内部にあり、0 ～ 20dB の間で入力ゲイン値を調整します。調整には電池ボックスの蓋にあるツメを使用することができます。

### ⑪ 充電接点

オプションの充電器 [CU 400] を使うときに使用します。

### PT 450 スライドスイッチ操作詳細

スライドスイッチ：**OFF から MUTE/PRG** に移動

LED.............消灯
画面表示.......**機種名** [PT 450] と**設定周波数** [806.125] を一瞬だけ表示（いずれの表示もすぐに消えます)。その後 **AKG 独自の周波数表示** [b15.001] と、赤外線通信待ちうけ状態であることを示す [ProG.Ir] を交互に表示。
電波状態.......赤外線通信待ち受け状態です。電源は ON ですが、RF 信号･AF(音声)信号ともにミュートされています。

スライドスイッチ：**MUTE/PRG から ON** に移動

LED.............緑色点灯
画面表示.......**AKG 独自の周波数表示** [b15.001] を一瞬表示（すぐに消えます)。その後**電池残量** [5h] を常時表示。
電波状態.......RF 信号・AF( 音声 ) 信号ともに送信され、運用中の状態です。

スライドスイッチ：**ON から MUTE/PRG** に移動

LED.............赤色点灯
画面表示.......**AKG 独自の周波数表示** [b15.001] と**電池残量** [5h] を交互に表示。
電波状態.......電源は ON で、RF 信号も発信していますが、音声信号はミュートしています。

スライドスイッチ：**MUTE/PRG から OFF** に移動

LED.............消灯
画面表示.......「**off**」を表示した後消灯。
電波状態.......電源が OFF のため、電波は発信されません。

※「設定周波数」や「AKG 独自の周波数表示」は、予め設定していないと表示されません。

# 操作の前に

## ロックモード

受信機 [SR 450] の電源を ON にすると、液晶画面中央には<周波数設定>または<本機の名称>と画面右下にLOCKが表示されます。このLOCKは本機がロックモードであることを示し、この時パラメーター選択ボタン◀▶を押しても以下の順で画面が表示されるだけで設定の編集は一切行う事ができません。

<周波数設定>　<本機の名称>　< AKG 独自の周波数表示>

ただし、あらかじめ周波数の設定が済んでいて、送信機と受信機の周波数設定が一致していれば、ロックモードでもそのままワイヤレスシステムとして使用することができます。使用するたびに周波数を設定しなおす必要のない用途では、この機能を利用して送信機・受信機の電源 ON/OFF だけで誤操作の心配なくワイヤレスシステムを運用することができます。

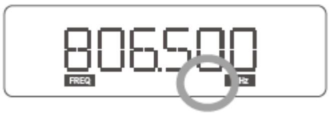
誤操作を防ぐため、本体内部の設定を編集する時のみロックモードを解除し、設定が完了したらロックモードを設定することをお勧めします。ロックモードの設定／解除の方法は以下の通りです。

### ロックモードの設定／解除

受信機前面パネルにある、パラメーター選択ボタン◉を長押しすることでロックモードの設定／解除が行えます。

★ ロックモードを解除した状態で、長時間放置すると再びロックモードになります。その際は再度ロックモードを解除してください。

ロックモード時の表示
（内部設定の編集不可）




ロックモード解除時の表示
（内部設定の編集可能）

## メニューについて

受信機 [SR 450] の内部設定は、図のように 9 種類のメインメニューと 4 種類のサブメニューで構成されています。

ロックモード解除後パラメーター選択スイッチ◀または▶を押すと、画面には本機で設定できる様々なメニューのタイトルが順に表示されます。設定を編集する時は、目的のメニュータイトルを画面に表示させた後、パラメーター選択スイッチ◉で選択・決定します。その後の操作方法やメニューの詳細につきましては該当の項目でご確認ください。

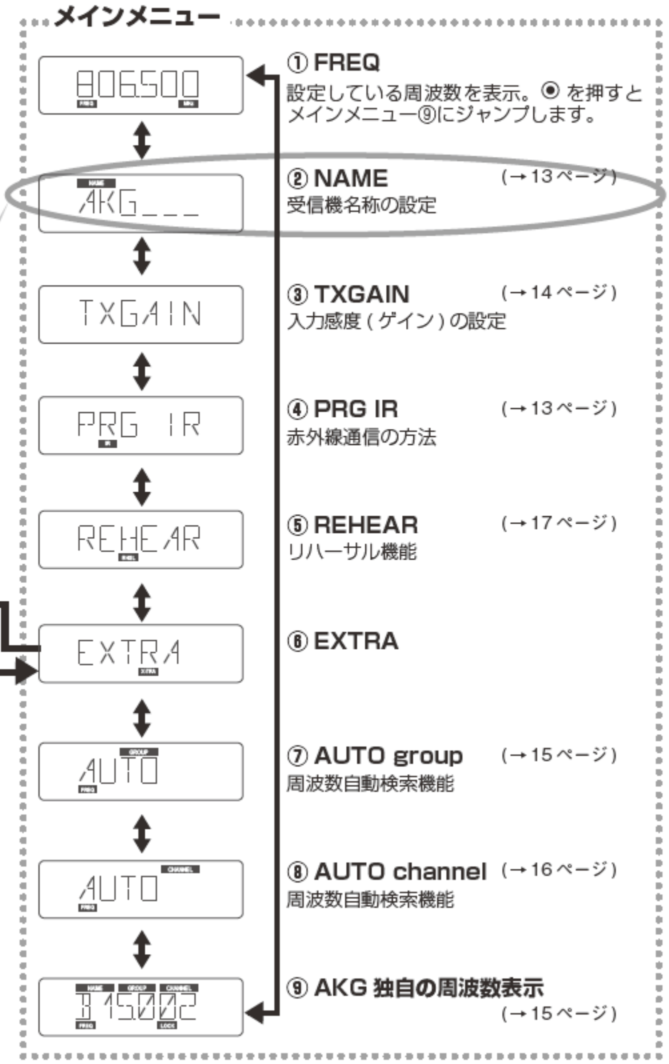
**<② NAME >画面について**

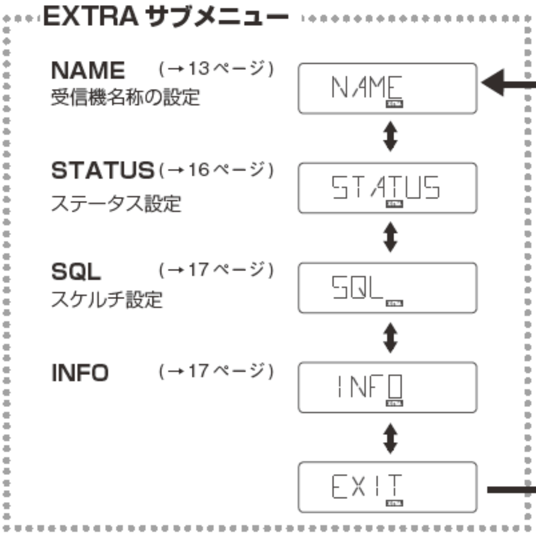
⚠名称を設定していないとこの< NAME >画面は表示されません。

★ 工場出荷状態では名称が設定されていませんのでご注意ください。

★ 初めて設定する時は、<⑥ EXTRA >→< NAME >から設定を行ってください (13 ページ参照 )。

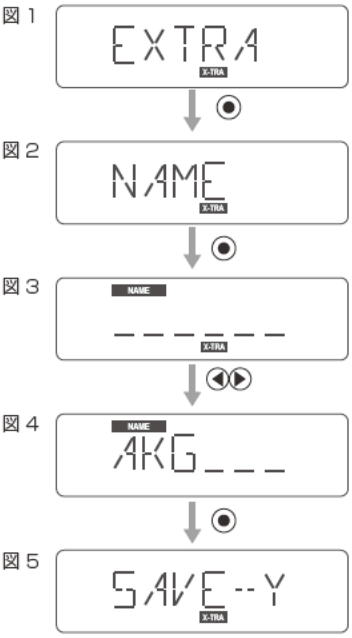
★ 設定後は、メインメニューに設定した名称が表示され、メインメニュー<② NAME >から名称の編集が行えます。



## 受信機名称の設定＜ NAME ＞

受信機 [SR 450] には、英数字で最大６文字の名称を登録することができます。個別認識がしやすく、複数システムを同時運用するときの混乱を防ぎます。




### 初めて名称を設定する方法

⚠ 工場出荷状態では、受信機名称が登録されていません。そのため、初回起動時や名称未登録の時にメインメニューをスクロールしてもメインメニュー＜② NAME ＞は表示されません (12 ページ「メニューについて」参照)。初めて名称を設定する際には、必ず＜⑥ EXTRA ＞→＜ NAME ＞から設定を開始してください。

① 受信機の電源を ON にした後、パラメーター選択ボタン◉を長押しして〝ロックモード〝を解除します。

② メインメニューから＜⑥ EXTRA ＞を選択し、◉で決定します【図 1】。

③ ＜ NAME ＞が表示されるので、◉を一度押します【図 2】。

④ 左端の文字が点滅し、文字入力が可能になります。◀▶を使って必要な文字を選択します。◉を押すと入力され、次の文字へ移動します。アルファベット26 文字と０～９の数字が使用できます【図 3】【図 4】。

⑤ 全ての文字を入力し終えると＜ SAVE-Y ＞が表示されます【図 5】。◉を押すと、名称の設定は完了します。

★＜ SAVE-N ＞を表示し◉で決定すると、編集前の名称に戻ります。

★＜ DELETE ＞を表示し◉で決定すると、入力データは削除され名称は登録のない状態 ( 工場出荷状態 ) に戻ります。

上記の手順に従って一度登録を済ませると、メインメニュー＜② NAME ＞が表示されるようになり、次にはメインメニュー＜② NAME ＞から簡単に名称の編集を行えます。

## 赤外線通信の方法＜ PRG IR ＞

周波数設定やハンドヘルド型送信機 [HT 450] のゲイン設定を送信機に転送する際に使用します。各種設定を行った後、受信機の画面に＜ PRG IR ＞が表示されたら、以下の手順に従って赤外線通信を行ってください。

★ ボディパック型送信機 [PT 450] のゲイン設定は [PT 450] 本体で行います。

① 受信機の液晶画面に <PRG IR> が表示されていることを確認します【図 1】。

② 送信機のスライドスイッチを "OFF" から "MUTE/PRG" に切り替えます。

★ これにより、送信機は赤外線通信の待ち受け状態になります。このとき、送信機の LED は消灯しています。

③ 送信機の「IR」文字部が赤外線受信ポートです。受信機の赤外線送信ポートに向かい合うよう、まっすぐ近づけます【図 2】。

★ 受信可能範囲は、上下左右 10 度、距離 10cm 以内です。

★ 受信機と送信機の間に障害物がないことを確認してください。

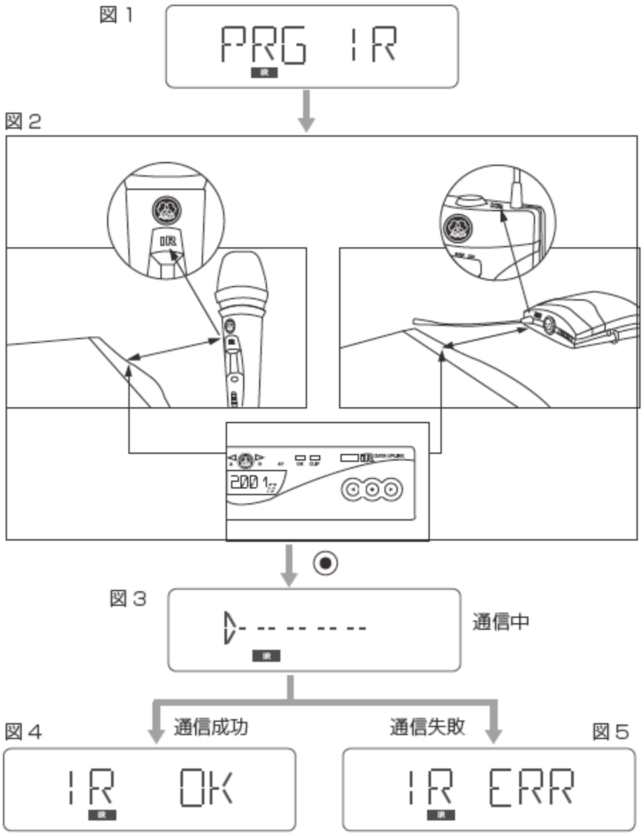
④ 受信機の◉ボタンを押すと、赤外線の送信が始まります【図 3】。

⑤ 受信機の画面に＜ IR OK ＞と表示されると送信成功です【図 4】。設定が完了しました。

⑥ 通信に失敗した場合は受信機の画面に＜ IR ERR ＞と表示されます【図 5】。このとき受信機の◉ボタンを押して＜ RETRY ＞が点滅している間に再度◉ボタンを押すと赤外線通信が再開します。

⚠ 数回試しても失敗する場合は、送信機のスライドスイッチを一度 "OFF" にし、再度 "MUTE/PRG" にしてから受信機の◉ボタンを押し、赤外線通信を行ってみてください。

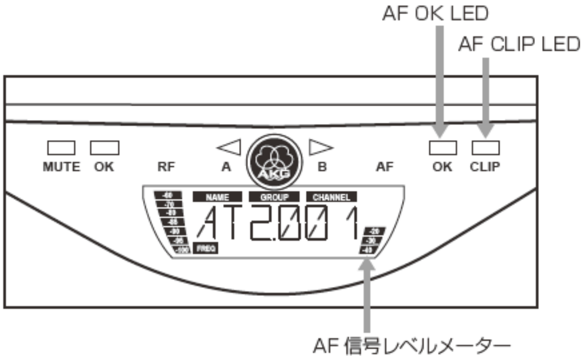
★ 本システムは、受信機からの赤外線通信以外に、送信機の周波数等の設定を行うことができません。



# 入力感度 ( ゲイン ) の設定< TX GAIN >

ミキサーのフェーダーを上げれば音は出ているのに、受信機 [SR 450] の液晶画面右にある AF 信号レベルメーターがほとんど点灯しない場合や、AF CLIP LED が赤く点灯して送信機からの音声信号が激しく歪む場合は「入力感度 ( ゲイン )」を調整する必要があります。

入力感度 ( ゲイン ) 設定が正しく行われていないと、受信機のフロントパネル左側に設置されている出力レベルコントロールつまみを調整しても最良の音質は得られません。




## ハンドヘルド型送信機 [HT 450] の入力感度設定方法

メーカー出荷時、送信機の入力感度は"Lo=低"に設定されています。声量が少ない場合など感度がより必要な場合、"Hi=高"に切り替える必要があります。

⚠ ハンドヘルド型送信機の入力感度は、ハンドヘルド型送信機本体では、変更ができません。必ず受信機で設定し、赤外線を利用して送信機に転送します。

① 受信機の電源を ON にした後、パラメーター選択ボタン◉を長押しして"ロックモード"を解除します。

② ◀▶でメインメニュー<③ TXGAIN >を選択し、◉で決定します。

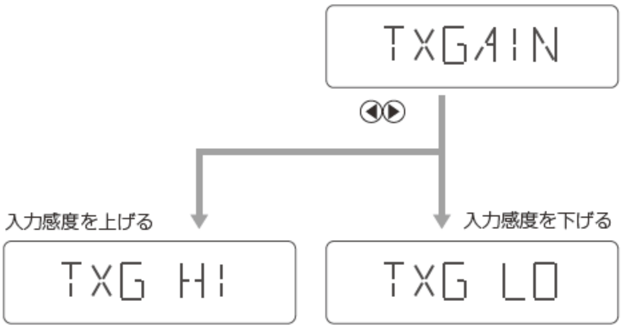
③ ◀▶で< H i >または< Lo >を選択し、◉で決定します。

④ < PRG IR >が表示されますので、◉を押して赤外線通信を行い送信機に設定を転送します。

★詳細は 13 ページ「赤外線通信の方法」をご覧ください。

⑤ < IR OK >が表示されれば設定完了です。

⚠ 入力感度を< HI= 高>に設定している状態で "AF CLIP LED" が頻繁に点灯する場合は設定が高すぎる可能性があります。< LO= 低>に設定し、音量は受信機前面の< VOLUME つまみ>で調整してください。また送信機の感度が< LO= 低>に設定されているにもかかわらず受信機の "AF CLIP LED" が点灯し続け、音声が歪む場合はマイクロホンを口から遠ざけてください。

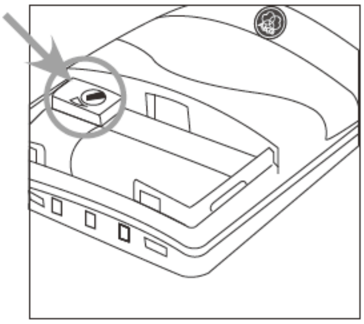



## ボディパック型送信機 [PT 450] の入力感度設定方法

ボディパック型送信機は、電池ボックス内部にゲインコントロールつまみを搭載しています。0 ~ 20dB の範囲で調整が可能です。

つまみは右に回すと感度が上がり、左に回すと感度が下がります。接続する音源の出力レベルに応じて、受信機の AF CLIP LED が点灯しない範囲で、液晶画面右の AF 信号レベルメーターが「0」付近で常時点灯するよう調整してください。

ゲインコントロールつまみは、ボディパック型送信機の電池ボックスの蓋のツメを使って調整することができます。



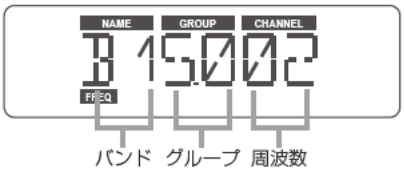
## AKG 独自の周波数表示

本システムには「806.125」のように数字 (MHz) による周波数表示とは別に、AKG 独自の周波数表示を採用しています。AKG 独自の周波数表示では、右表示例のように、アルファベットと数字 6 文字を組み合わせて「バンド」「グループ」「周波数」の 3 種類の情報を表示します。それぞれが示す内容は、下記の「AKG 独自周波数表示」表に対応しており、同一「グループ」内の周波数は同時使用が可能です。この表示方法は、本ページ後半から始まる「周波数自動検索機能」に使用するためのもので、この機能により、複数のシステムを同時に使用する場合でもセットアップを迅速かつ正確に行うことができます。

**バンド**：日本国内では「B1」のみのため一切変更できません。

**グループ**：同時使用可能な 6 波の組み合わせを「5.0」～「5.9」の数字で示します。

**周波数**：上記 " グループ " に含まれる 6 波の周波数を「01」～「06」の数字で示します。




### AKG 独自の周波数表示

| バンド | | B1 | B1 | B1 | B1 | B1 | B1 | B1 | B1 | B1 | B1 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| グループ | | 5.0 | 5.1 | 5.2 | 5.3 | 5.4 | 5.5 | 5.6 | 5.7 | 5.8 | 5.9 |
| 周波数 (MHz) | 01 | 806.125 | 809.750 | 806.125 | 809.750 | 806.125 | 809.750 | 806.125 | 809.750 | 806.125 | 809.750 |
| | 02 | 806.500 | 809.375 | 806.500 | 809.375 | 806.500 | 809.375 | 807.500 | 808.375 | 806.875 | 809.000 |
| | 03 | 808.250 | 807.625 | 808.250 | 807.625 | 808.250 | 807.625 | 809.250 | 806.625 | 809.250 | 806.625 |
| | 04 | 809.625 | 806.250 | 809.625 | 806.250 | 809.750 | 806.125 | 809.625 | 806.250 | 809.625 | 806.250 |
| | 05 | 807.000 | 808.875 | 807.750 | 808.125 | 807.750 | 808.125 | 806.750 | 809.125 | 807.500 | 808.375 |
| | 06 | 809.000 | 806.875 | 808.875 | 807.000 | 808.875 | 807.000 | 808.750 | 807.125 | 808.000 | 807.875 |

## 周波数自動検索機能＜ AUTO ＞

本システムは、使用可能な周波数を検索する周波数自動検索機能を搭載しています。周波数の自動検索には、「オートグループセットアップ」と「オートチャンネルセットアップ」の二種類の方法があります。

**オートグループセットアップ**

使用環境における電波状況をスキャンし、最適なチャンネルを検出・設定します。1 波で運用する場合や、複数波使用する場合に最初の 1 台目に行う設定方法です。

**オートチャンネルセットアップ**

既に設定が完了している 1 台目のワイヤレスシステムと併用可能なチャンネルを検出・設定します。複数を同時使用する場合の、2 台目以降の設定に使用します。

### オートグループセットアップの設定方法

① 受信機の電源を ON にした後、パラメーター選択ボタン◉を長押しして "ロックモード " を解除します。

② ◀▶で＜⑦ AUTO ＞メニューの GROUP を選択し、◉で決定します【図 1】。

③ ＜ NoCH 1 ＞が表示されます。◀▶を使って数字を変更させ、運用台数を指定します【図 2】。

★ 1 台のみで運用する場合には＜ 1 ＞を選択します。

★ 最大 6 台まで設定可能です。

④ ◉を押して運用台数を決定します。

⑤ NAME と＜ B1 ＞が点滅しながら表示されます。◉を押して決定します【図 3】。

⑥ 自動的に最適なチャンネルが選択されて、画面表示が点滅します【図 4】。

⑦ もう一度◉を押すと＜ SAVE-Y ＞が表示されますので、よければ再度◉を押して設定を保存します。

★ 保存しない場合は◀▶を使って＜ SAVE-N ＞を選択し、◉で決定します。

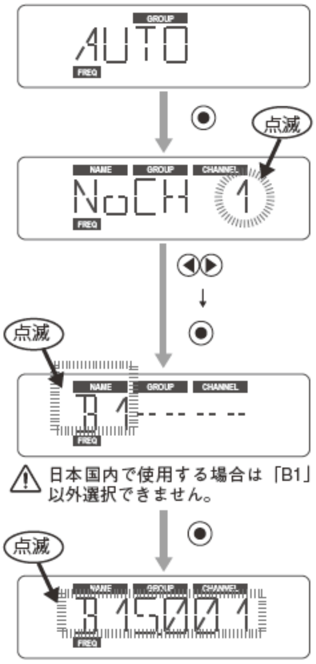
⑧ ＜ PRG IR ＞が表示されますので、送信機を赤外線通信可能な状態にして◉を押します。

★赤外線通信の詳細については 13 ページ「赤外線通信の方法」をご覧ください。

⑨ 赤外線通信が正常に完了したことを示す＜ IR OK ＞が表示されれば設定完了です。

⑩ 2 台以上のシステムを同時に使用する場合は、次の「オートチャンネルセットアップ」に従い、2 台目以降のシステムの設定を行ってください。

図 1
図 2
図 3
図 4



## 周波数自動検索機能＜ AUTO ＞（続き）

### オートチャンネルセットアップの設定方法

⚠ 2 セット以上を同時に使用する場合は、必ず最初にオートグループセットアップで 1 セット目の設定を完了してください。

⚠ 2 台目以降の設定は、設定済みのワイヤレスシステムの電源を ON にして電波が発信されている状態で行ってください。周波数自動検索機能は現場の電波をスキャンして空き周波数を見つけ出すため、設定済みの電波が発信されていないと、同じ周波数で設定してしまうことがあります。

① 受信機の電源を ON にした後、パラメーター選択ボタン◉を長押しして゛ロックモード゛を解除します。

② ◀▶でメインメニュー＜⑧ AUTO ＞の CHANNEL を選択し、◉で決定します【図 1】。

③ NAME と＜ B1 ＞が点滅したら◉で決定します【図 2】。

④ GROUP とその下の数値が点滅します。1 台目の設定と同じグループを選択し、◉で決定します【図 3】。

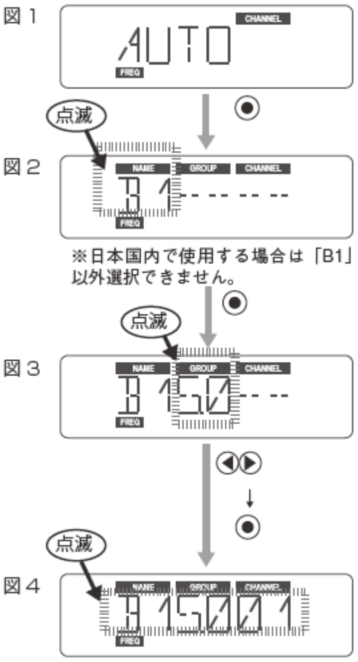
⑤ 1 台目のワイヤレスシステムで設定した周波数以外の周波数を自動検索し、設定します【図 4】。最後に◉を押すと＜ SAVE-Y ＞が表示されますので、よければ◉を押して設定を保存します。

★ 保存しない場合は◀▶を使って＜ SAVE-N ＞を選択し、◉で決定します。

⑥ ＜ PRG IR ＞が表示されますので、送信機を赤外線通信可能な状態にして◉を押します。詳しくは、13 ページ「赤外線通信の方法」をご覧ください。

⑦ 赤外線通信が正常に完了したことを示す＜ IR OK ＞が表示されれば設定完了です。

★ 既に使用されている周波数を保存しようとすると＜ RETRY ＞が点滅します。




## ステータス設定＜ STATUS ＞

受信機 [SR 450] は、運用中に異常を検知した際、液晶画面バックライトの色を変えてエラー情報を表示させることができます。正常時「緑色」の液晶画面バックライトが、異常時には「赤色」に変わります。表示可能なエラーは以下の 3 種類で、表示・非表示の設定は個別に行うことができます。

LAW.BAT：送信機の電池残量が 1 時間以下の時

AFCLIP：AF( 音声 ) 信号がクリップした時

RF.LOW：RF 信号が極めて低い時

### 表示・非表示の設定方法

① 受信機の電源を ON にした後、パラメーター選択ボタン◉を長押しして゛ロックモード゛を解除します。

② ◀▶でメインメニュー＜⑥ EXTRA ＞を選択し、◉で決定します【図 1】。

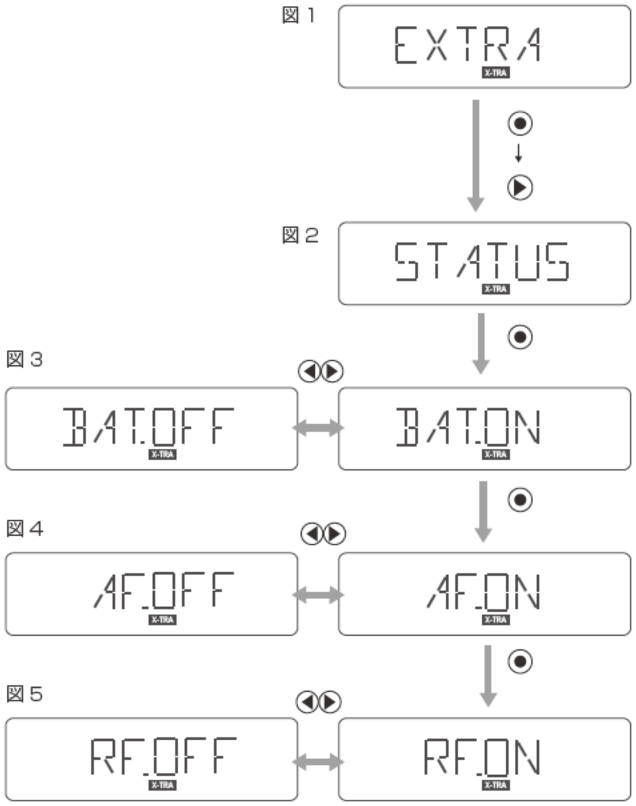
③ ◀▶で EXTRA のサブメニュー＜ STATUS ＞を選択し、◉で決定します【図 2】。

④ ＜ BAT.OFF ＞が点滅します。設定する場合は＜ BAT.ON ＞、設定しない場合は＜ BAT.OFF ＞を◀▶を使って選択し、◉で決定します【図 3】。

⑤ ＜ AF OFF ＞が点滅します。設定する場合は＜ AF ON ＞、設定しない場合は＜ AF OFF ＞を◀▶を使って選択し、◉で決定します【図 4】。

⑥ ＜ RF OFF ＞が点滅します。設定する場合は＜ RF ON ＞、設定しない場合は＜ RF OFF ＞を◀▶を使って選択し、◉で決定します【図 5】。

⑦ 最後に＜ SAVE-Y ＞が表示されますので、よければ◉を押して設定を保存します。



## リハーサル機能< REHEAR >

電波 (RF 信号 ) のドロップアウトを記録・確認できる機能です。リハーサル時に本機能を利用することで電波のデッドポイントを確認することができます。内部メモリーの関係により、最大 15 分間 ( ※ ) もしくは 6 回 ( ※ ) のドロップアウトを確認した時点で記録は終了となります。

⚠ 記録できる時間や回数は電波状況などによって異なりますのでご注意ください。

① 受信機の電源を ON にした後、パラメーター選択ボタン◉を長押しして〝ロックモード〞を解除します。

② ◀▶でメインメニュー<⑤ REHEAR >を選択し、◉で決定します【図 1】。

③ < START >が表示されます【図 2】。

④ もう一度◉を押すとリハーサル機能が始まり、画面には< RECORD >が表示されます【図 3】。

⑤ 15 分経過、もしくは電波のドロップアウトが 6 回以上確認できた場合、< OVFL >と表示され、リハーサル機能が停止します【図 4】。

★< OVFL >は内部メモリーがいっぱいになってしまったことを示します。

⚠ 電波状況などによっては、記録時間が 15 分以下、もしくは記録回数 6 回以下でも機能が停止する場合がありますのでご注意ください。

⑥ リハーサル機能を停止、またはメモリーがいっぱいになってしまった場合は、◉を一度押します。

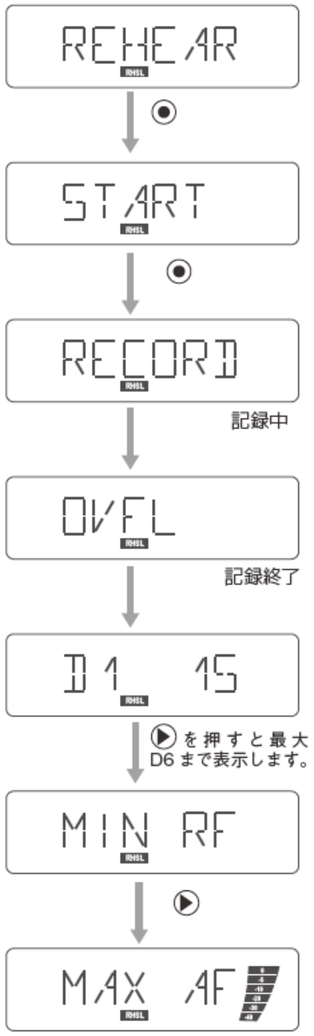
⑦ 画面表示が< D1 15 >の場合、リハーサル機能を開始して 15 秒後に 1 回目のドロップアウトが確認されたことを示しています。◀▶を使用して画面を切り替えると D2, D3……D6 まで表示されます【図 5】。

★時間は全て秒数で表示されます。< D5 314 >の表示は 5 回目のドロップアウトが 5 分 14 秒後だったことを示します。

⑧ 最後のドロップアウト表示の次は、< MIN RF >表示と画面左の RF 信号レベルメーターが同時に点灯します。【図 6】のように< MIN RF >と表示されながら画面左の RF 信号レベルメーターが全く表示されない場合は、RF( 電波 ) 信号が完全にドロップアウトした状態を示します。また、RF 信号レベルメーターがー 90 を示している場合はリハーサル機能動作中の RF 信号受信強度がー 90dB だったことを示します。

⑨ もう一度▶を押すと< MAX AF >が表示されます。【図 7】の場合はリハーサル機能動作中の最大信号レベルが 0dB だった事を表します。もう一度▶を押すと< EXIT >が表示され、◉を押すとリハーサル機能を終了します。

図 1 図 2 図 3 図 4 図 5 図 6 図 7




## スケルチ設定< SQL >

受信感度を調整します。工場出荷時はー 100dB に設定されています。どうしても必要な時以外は設定を変更しないことをお勧めします。

⚠ スケルチ値はー 100dB に近いほど受信感度が良くなりますが不要な近接電波も拾いやすくなり、比例してノイズ成分が増加します。反対にスケルチ値がー 80dB に近くなると近接する周波数を拾いにくくなるためノイズ成分は減少しますが、不安定な電波状況下では受信感度が大幅に落ちます。

① <⑥ EXTRA >メニューを選択し、◉で決定します。

② < SQL >が点滅したら◉を一度押します。

③ 設定されているスケルチ値が点滅します。◀▶を使用して値を変更し、◉で決定します。

④ 最後に< SAVE-Y >が表示されますので、よければ◉を押して設定を保存します。

## インフォメーション確認< INFO >

本機の内蔵ソフトウェアのバージョンを表す際に使用します。通常の操作には必要ありません。

<⑥ EXTRA >メニュー→< INFO >

# トラブルシューティング

**問題：音が出ない**

| 原 因 | 対 策 |
|---|---|
| AC アダプターが受信機の電源入力端子やコンセントにしっかり接続されていない。 | AC アダプターを受信機やコンセントにしっかり接続します。 |
| 受信機の電源スイッチが OFF になっている。 | POWER スイッチを押して、電源を ON にします。 |
| 受信機がミキサーやパワーアンプに接続されていない。 | 受信機をミキサーやパワーアンプに接続します。 |
| ( ボディパック型送信機 [PT 450] の場合 ) マイクロホンや楽器が接続されていない。 | マイクロホンや楽器を接続します。 |
| 送信機と受信機の設定周波数が異なる。 | 周波数を一致させます。 |
| 送信機の電源が OFF または MUTE になっている。 | 送信機の電源を ON にします。 |
| 送信機の乾電池が正しく装着されていない。 | 乾電池は極性に気をつけて正しく装着します。 |
| 送信機の電池残量が 0 になっている。 | 新しい乾電池もしくは充電池に取り替えます。 |
| 送信機と受信機の距離が離れすぎている、またはスケルチ設定が高すぎる。 | 受信機と送信機を近づけます。またスケルチ設定は低めに設定します。 |
| 送信機と受信機の間に障害物がある。 | 障害物をどかします。 |
| 送信機と受信機の距離が遠すぎる。 | 受信機が見える位置に移動します。 |
| 受信機の近くに金属がある。 | 金属の物体を移動させるか、受信機を移動させます。 |

**問題：ノイズが出る**

| | |
|---|---|
| アンテナの角度、位置が悪い。 | 受信機またはアンテナの位置を他の場所に移動させます。 |
| 他のワイヤレスシステムや TV、ラジオなど他の電波による干渉を受けている。 | 原因と思われる電波を発している機器を OFF にします。 |

**問題：音が歪む**

| | |
|---|---|
| 入力ゲイン設定が高すぎるまたは低すぎる。 | 入力ゲインを音源にあわせて適切に設定します。 |

**問題：音声信号が途切れる ( ドロップアウト )**

| | |
|---|---|
| アンテナの角度、位置が悪い。 | 受信機またはアンテナの位置を他の場所に移動させます。 |

以下は、受信機および送信機の液晶画面に表示される警告表示とその説明です。問題が発生した場合は、以下の内容を参考にして対処してください。問題が長引く、もしくは解決しない場合はお買い上げの店舗にご相談ください。

**受信機の警告表示**

| 警 告 表 示 | 警 告 内 容 | 対 策 |
|---|---|---|
| ERR.>SYS< | 周波数設定を変更不可。 | 受信機の電源を一度 OFF にし、10 秒後に ON にします。 |
| ERR.>PRE< | AKG 独自の周波数設定 [ バンド / グループ / 周波数 ] の選択間違い。 | エラーが発生しない AKG 独自の周波数設定 [ バンド / グループ / 周波数 ] を選択します。 |
| TXBand | 送信機の周波数帯域が受信機の周波数帯域と一致しない。<br>RF 出力が高すぎる／低すぎる。 | 受信機と同じ周波数にします。<br>RF 出力を調整します。 |

**受信機と送信機の警告表示**

| 警 告 表 示 | 警 告 内 容 | 対 策 |
|---|---|---|
| ERR.>USR< | 最終の設定が読み込めない。 | 周波数およびスケルチ値を再設定します。 |
| ERR.>RF< | PLL エラー。受信機が選択した周波数に設定できない。 | 別の周波数に設定します。 |
| Err.>IR< | 赤外線通信が失敗した。 | 送信機と受信機の赤外線ポートをまっすぐ、5 センチ以内に置いて再度試します。 |

**送信機の警告表示**

| 警 告 表 示 | 警 告 内 容 | 対 策 |
|---|---|---|
| >-h< | 送信機が乾電池もしくは充電池のいずれかを判別できない。または充電中に送信機の電源が ON になっている。 | 一度乾電池を取り外し、5 秒後にもう一度装着します。または送信機を充電器から外して電源を OFF にしたあと、再度充電します。 |
| >ChArGE<<br>（充電池のみ） | 充電が不十分。 | 充電器 [CU 400] を使って充電、または使用中の充電池を取り外し、新しい乾電池もしくは確実に充電された充電池を使用します。 |

# 仕様

## ■システム全体

電波形式............................ F3E
到達距離............................ 約 70m
※標準環境における最大値です。使用環境によって異なります。
周波数特性.......................... 35 ～ 15,000Hz
※システム全体の帯域幅はマイクヘッドにより変動します。

## ■受信機 [SR 450]

受信周波数.......................... B 型 (806.125 ～ 809.750MHz) のうち任意の 1 チャンネル
アンテナ入力........................ コネクター：BNC × 2
実効インピーダンス：50 Ω
SN 比................................ 120dB(A ウェイト )
THD.................................. 0.3%以下 (1kHz)
音声出力............................ 形式 ( コネクター )：バランス (XLR3 ピン、オス )・アンバランス ( フォーンジャック )
インピーダンス：6000 Ω (+6dB/0dB)、56 Ω ( − 30dB)
レベル：− 30dB( マイク ) ／ 0dB( ライン ) 切替
使用電源............................ DC12V(500mA)、付属の AC アダプター (AC100V, 50/60Hz, 80mA)
使用温度範囲........................ − 10℃～ 45℃
寸法................................. 200( 幅 ) × 190( 奥行 ) × 44( 高 )mm
質量................................. 972g

## ■ハンドヘルド型送信機 [HT 450]

送信周波数.......................... B 型 (806.125 ～ 809.750MHz) のうち任意の 1 チャンネル
空中線電力.......................... 10mW
アンテナ形式........................ 内蔵式アンテナ
発振方式............................ 水晶 PLL 周波数シンセサイザー
変調方式............................ FM 変調
最大入力レベル...................... 146 dB SPL(C5 ヘッドモデル )、HT 450：900mV(1kHz, 実効値 )
ゲイン調整範囲...................... High / Low
S/N 比............................... 120dB(A ウェイト )
THD.................................. 0.7%以下 (1kHz)
電源................................. 単 3 型アルカリ乾電池× 1、またはニッカド水素充電池 (2100mAh)
電池寿命............................ 単 3 形アルカリ乾電池：約 6 時間
※時間は目安です。使用環境によって異なりますのでご注意ください。
使用温度範囲........................ − 10℃～ 45℃
寸法................................. φ 52.5 × 229( 長 )mm　※マイクヘッド含む
質量................................. 220 g　※マイクヘッド含む、除電池

## ■ボディパック型送信機 [PT 450]

送信周波数.......................... B 型 (806.125 ～ 809.750MHz) のうち任意の 1 チャンネル
空中線電力.......................... 10mW
アンテナ形式........................ 1/4 波長ホイップアンテナ
発振方式............................ 水晶 PLL 周波数シンセサイザー
変調方式............................ FM 変調
最大入力レベル...................... 1400mV(1kHz、最小ゲイン )
ゲイン調整範囲...................... 0 ～ 20dB 可変
S/N 比............................... 120dB(A ウェイト )
THD.................................. 0.7%以下 (1kHz)
入力コネクタ........................ ミニ XLR、3 ピン
電源................................. 単 3 型アルカリ乾電池× 1、またはニッカド水素充電池 (2100mAh)
電池寿命............................ 単 3 形アルカリ乾電池：約 6 時間
※時間は目安です。使用環境によって異なりますのでご注意ください。
使用温度範囲........................ − 10℃～ 45℃
寸法................................. 60( 幅 ) × 73.5( 高 ) × 30( 奥行 )mm　※除アンテナ
質量................................. 90g　※除電池

●この製品を安全にお使いいただくために、設置・運用には十分な安全対策を行ってください。
●この取扱説明書に記載されている商品名、会社名などは各社の登録商標または商標です。
● AKG は、A Harman International Company のブランドです。


http://www.hibino.co.jp/
E-mail: proaudiosales@hibino.co.jp

ヒビノ株式会社　ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12
TEL: 03-5783-3110　FAX: 03-5783-3111

北海道オフィス
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20
TEL: 011-640-6770　FAX: 011-640-6776

大阪ブランチ
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8
TEL: 06-6339-3890　FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26
TEL: 052-589-2712　FAX: 052-589-2719

福岡ブランチ
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6
TEL: 092-611-5500　FAX: 092-611-5509


2011.01